



三和油化工業株式会社

東証スタンダード市場／名証メイン市場

証券コード：4125

2026年3月期 第2四半期 決算説明資料

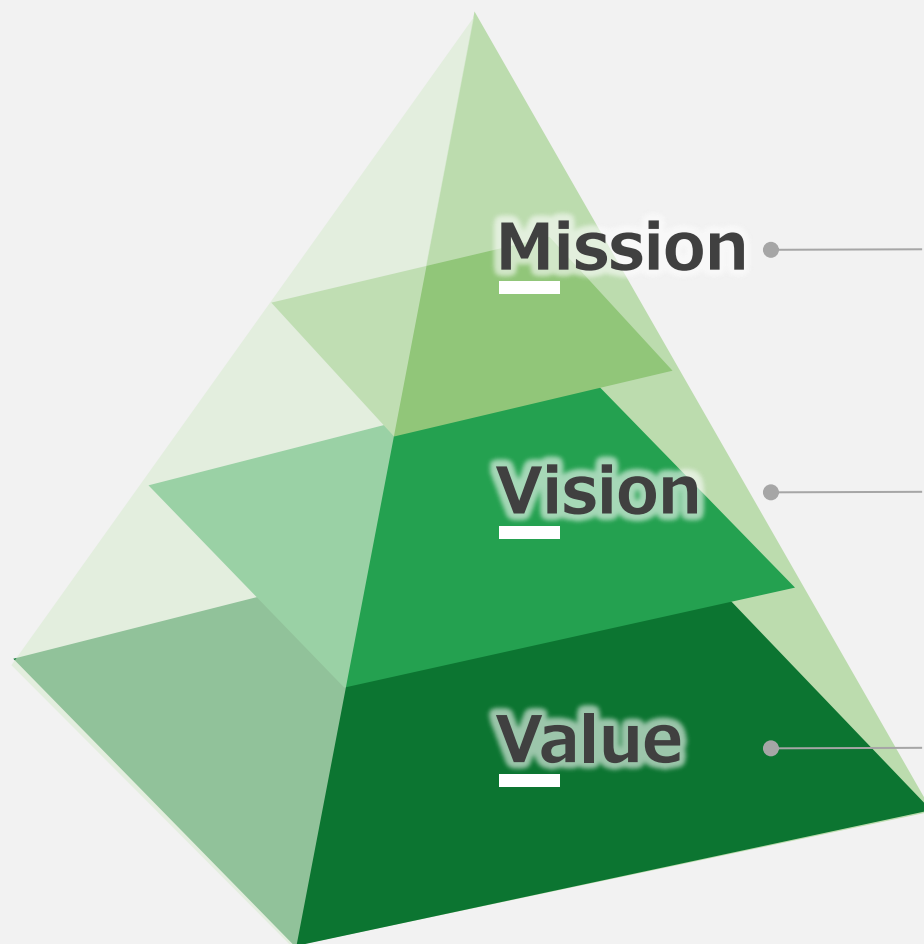
2025年11月11日

1. 会社概要	P. 3
2. 2026年3月期 第2四半期 決算概要	P. 7
3. 2026年3月期 業績予想	P. 19
4. 中期経営計画	P. 24
5. Appendix	P. 33



会社概要





Mission

我々は何のために
存在しているのか

「環境ニーズを創造する」をテーマに
事業活動を展開し、持続可能な
社会の実現への貢献

Vision

我々はどこに行こう
としているのか

社会から必要とされる
環境リーディングカンパニー
を目指す

Value

我々は何を大切に
しているのか

社会からより信頼されるよう、
「責任」・「挑戦」・「創造」の理念を
根幹に、与えられた役割を常に考え、
「誠実に、確実に」やり遂げる

■ 主力3事業のリユース・リサイクル・化学品で売上高全体の約80%



エンジニアリング事業

7.3% (25年3月期2Q : 5.4%)

PCB処理で培ったノウハウを活かし、プラント改廃時の清掃・解体・廃棄物処理をワンストップで実施



自動車事業

13.9% (25年3月期2Q : 15.1%)

自動車メーカー・自動車部品メーカーなど向けに潤滑油や金属加工油などの油剤製品、工業用洗浄剤及び自動車製造工程で使用される各種副資材を製造・販売



化学品事業

20.3% (25年3月期2Q : 20.1%)

有機化学品や無機化学品及びそれらを精製・加工した化学品の製造・販売及び受託加工



リユース事業

23.9% (25年3月期2Q : 24.2%)

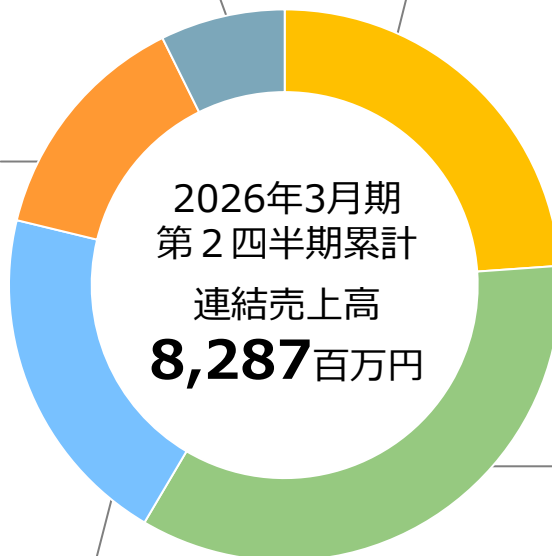
使用済み廃溶剤、廃酸、有用金属等を含む産業廃棄物などを中間処分・再資源化し、元の用途や素材として再使用



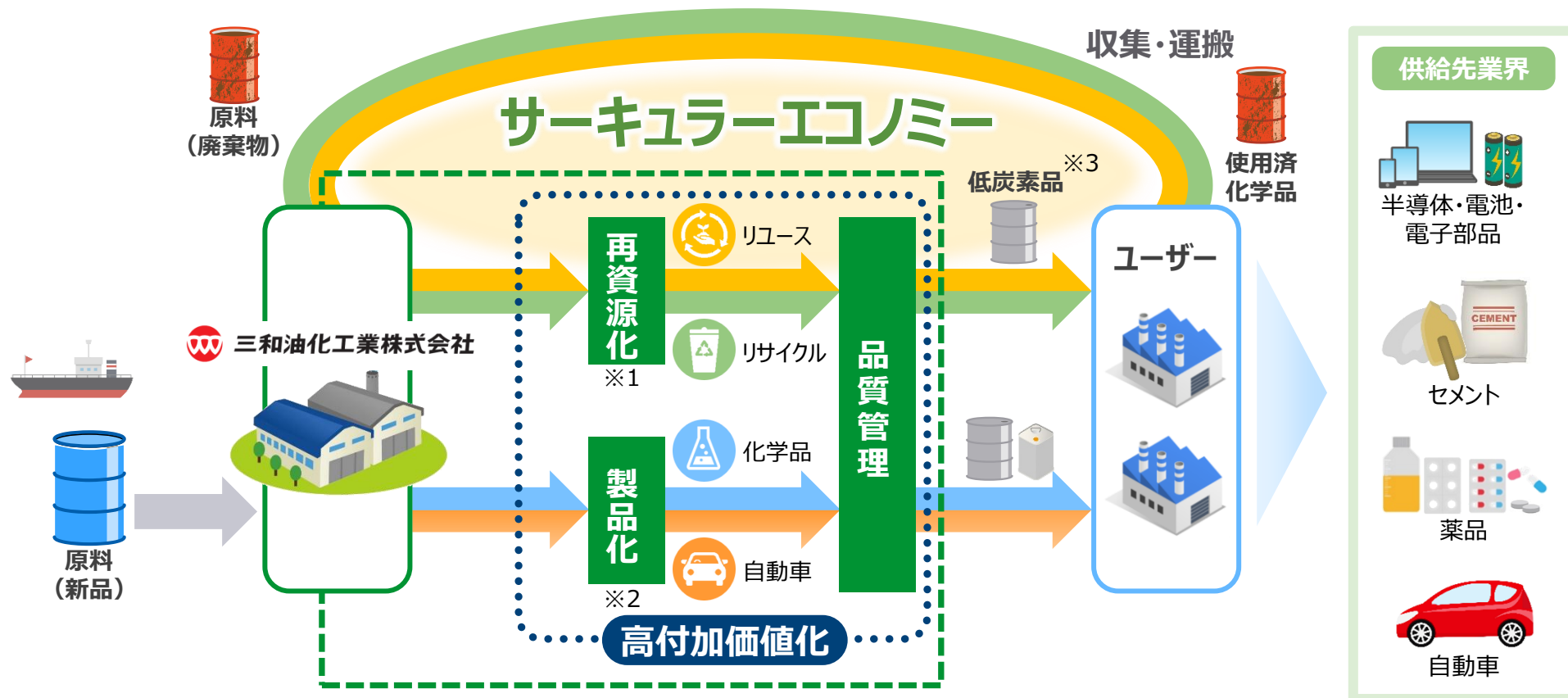
リサイクル事業

34.6% (25年3月期2Q : 35.2%)

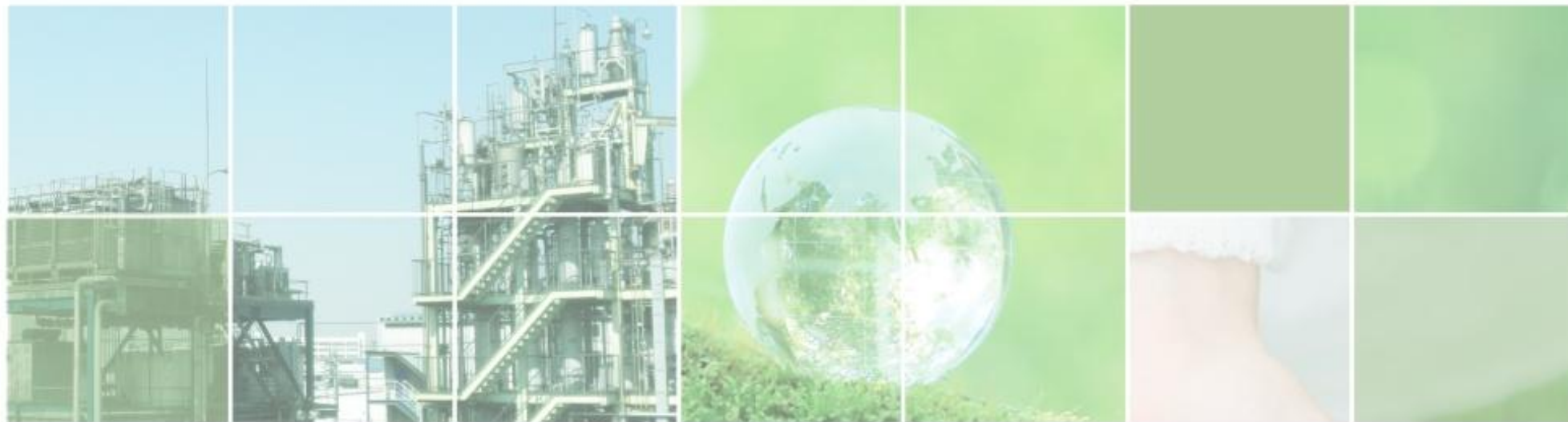
使用済み廃溶剤、汚泥、廃プラスチック類などの産業廃棄物を中間処分・再資源化し、再生燃料やセメント・石灰・鉄鋼の副原料及び副資材としての2次利用を中心に再資源化



- 高度な技術力で分離・精製を得意とする**化学品リサイクルメーカー**
- 再生品および製品の品質管理を高い水準で行うことにより**高付加価値化**
- 廃棄物を有効利用し、資源循環による**サーキュラーエコノミー**を実現



- ※1 再資源化とは、使用済化学品等の産業廃棄物を分離精製や混合することにより、再生品・再生燃料等を生産すること
- ※2 製品化とは、調達した原料を高純度化や調合等の加工を行うことにより、ファインケミカル品・油剤等を生産すること
- ※3 低炭素品とは、新品と比較して相対的にCO₂排出量が少なく製造された製品のこと



2026年3月期 第2四半期 決算概要



2026年3月期 第2四半期累計

売上高

8,287百万円

【前年同期比】 +6.6%



営業利益

492百万円

【前年同期比】 +45.8%



営業利益率

5.9%

【前年同期比】 +1.6PT



事業環境

- 米国の通商政策の影響等により、先行きは依然として不透明な状況
- インフレによる原材料価格・エネルギー価格・人件費等の高騰によりコスト負担は高止まり
- 半導体業界含め製造業全体の回復は想定より下回っているものの底を打ち回復基調

内部対応

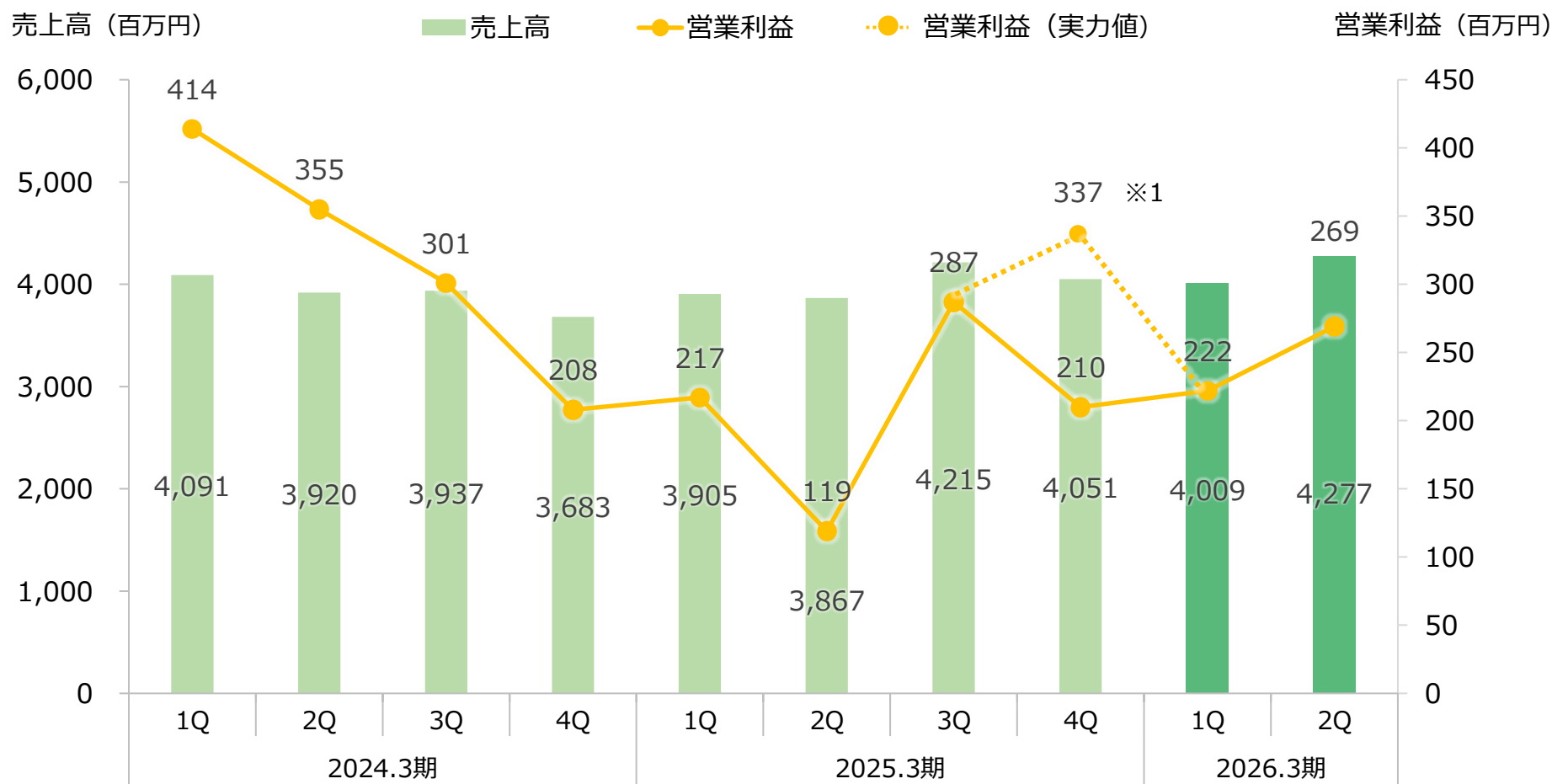
- 外注の内製化および工程改善活動による原価低減や高利益率の製品販売により粗利確保
- 希少金属のリユースを拡大すべく金属マテリアルリサイクル会社A&H Japan株式会社を子会社化
- 再資源化による付加価値を拡大するための研究開発投資を実施

⇒リユース・リサイクル事業は堅調を維持、化学品事業は復調傾向、エンジニアリング事業は好調
中期経営計画達成にむけた投資は計画通り進行中

- リユース・リサイクル事業は安定しており、**化学品・エンジニアリング事業の拡大により増収**
- 外注加工・運送の内製化および工程改善活動による**原価低減により利益率上昇**

(単位：百万円)	2025年3月期 2Q累計		2026年3月期 2Q累計		前年同期比	
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	増減額	前期比
売上高	7,773	100.0%	8,287	100.0%	+514	+6.6%
売上総利益	2,140	27.5%	2,453	29.6%	+313	+14.6%
営業利益	337	4.3%	492	5.9%	+154	+45.8%
経常利益	378	4.9%	586	7.1%	+208	+55.1%
親会社株主に帰属する 中間純利益	228	2.9%	376	4.5%	+147	+64.6%

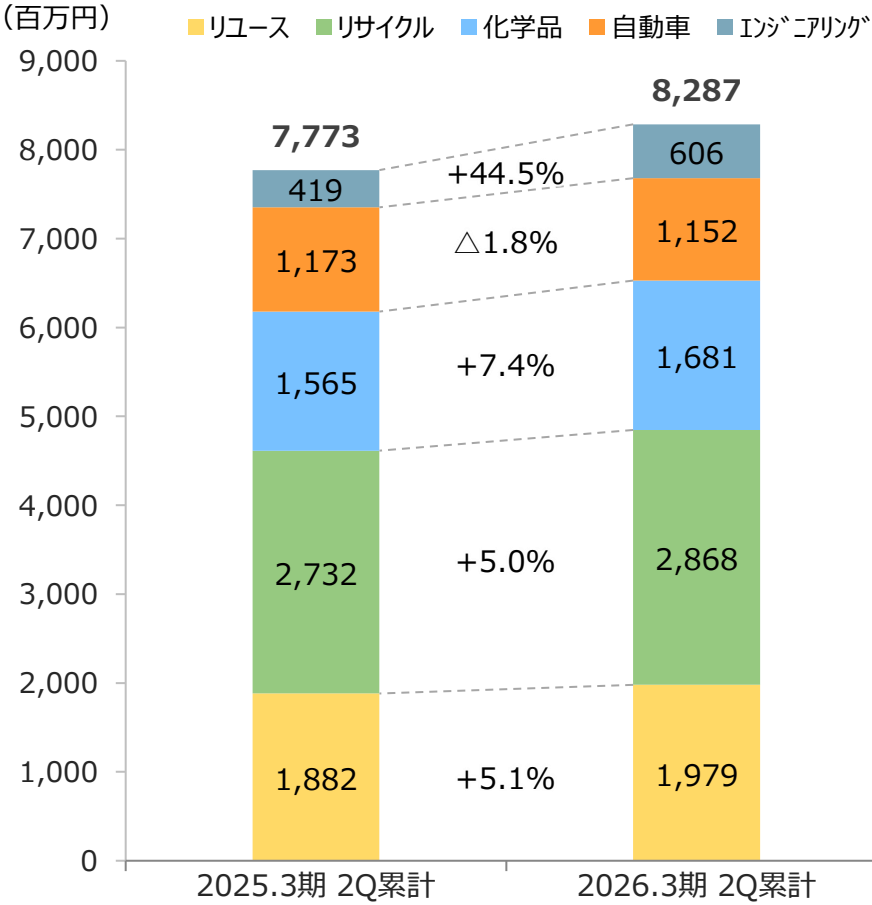
- 再資源化事業の堅調および化学品・エンジニアリング事業の拡大により**収益力は回復傾向**
- 原価改善により利益率が上昇したものの投資やコストの増加等により**利益の増加幅は限定的**



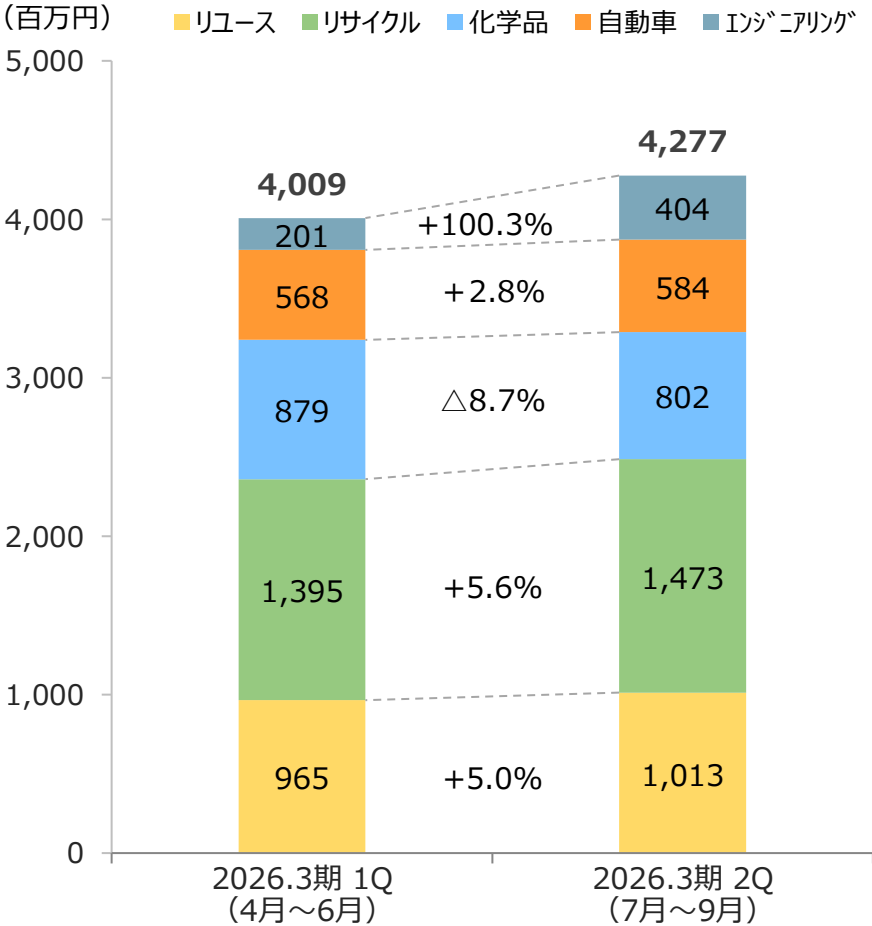
※1 2025年3月期4Qに会計基準変更による費用が127百万円発生。実力値としての営業利益は337百万円。

- リユース・リサイクル事業は堅調、化学品事業は電池業界向け製品販売の数量・単価が上昇
- エンジニアリング事業は大型解体工事の着手は遅れたものの、**PCB処理案件等で大幅リカバリー**

前年同期比（YoY）



前四半期比（QoQ）

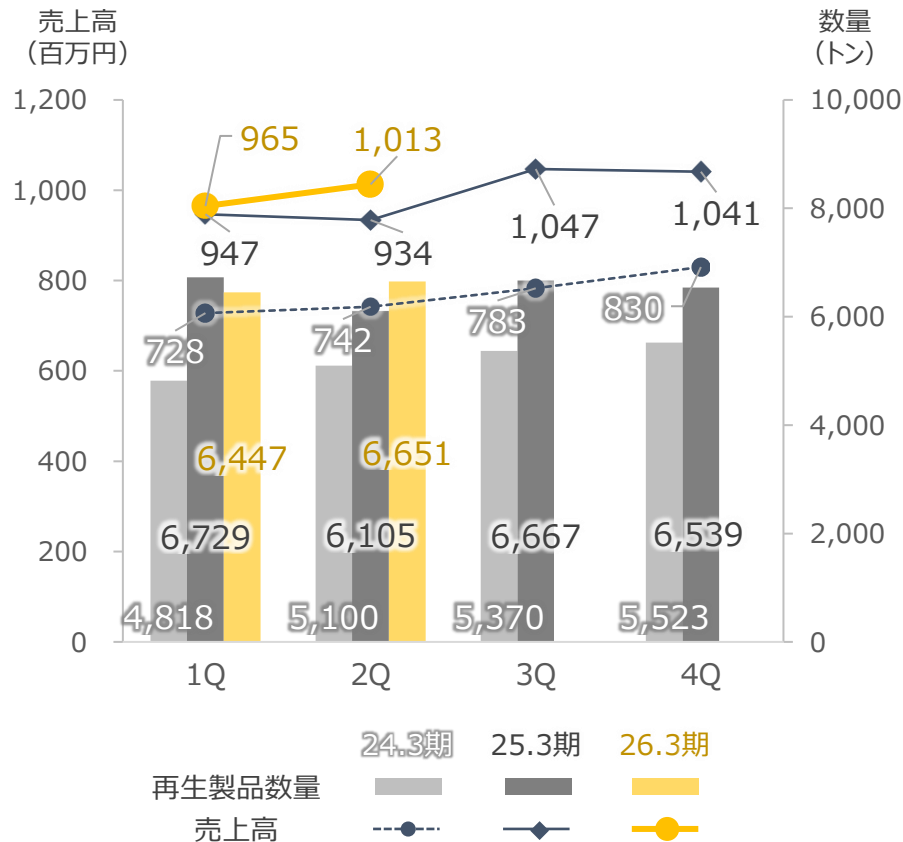




リユース、リサイクル事業（四半期ごとの推移）



リユース事業

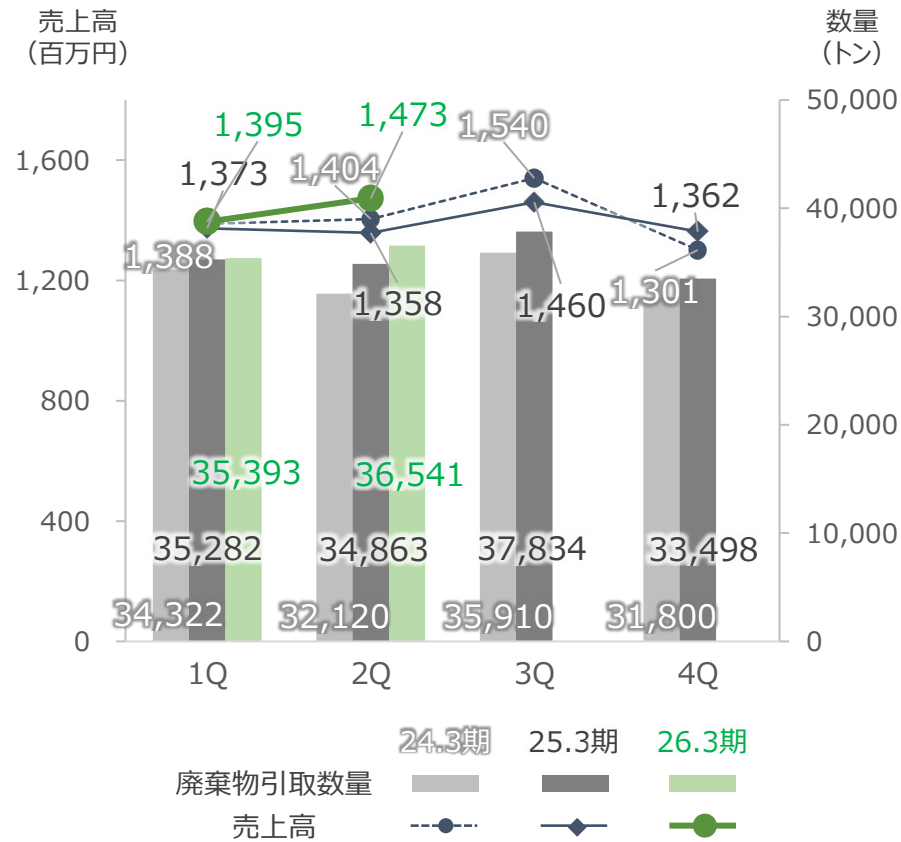


リユース事業売上と再生製品販売数量

- 溶剤系再生製品は数量・単価ともに前年より上昇
- 再生リン酸は原料となる使用済リン酸収集量は前年より減少



リサイクル事業



リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

- 廃棄物由来燃料の引合増により再生燃料の販売数量増加
- 引取単価の高い難処理物の収集量は回復

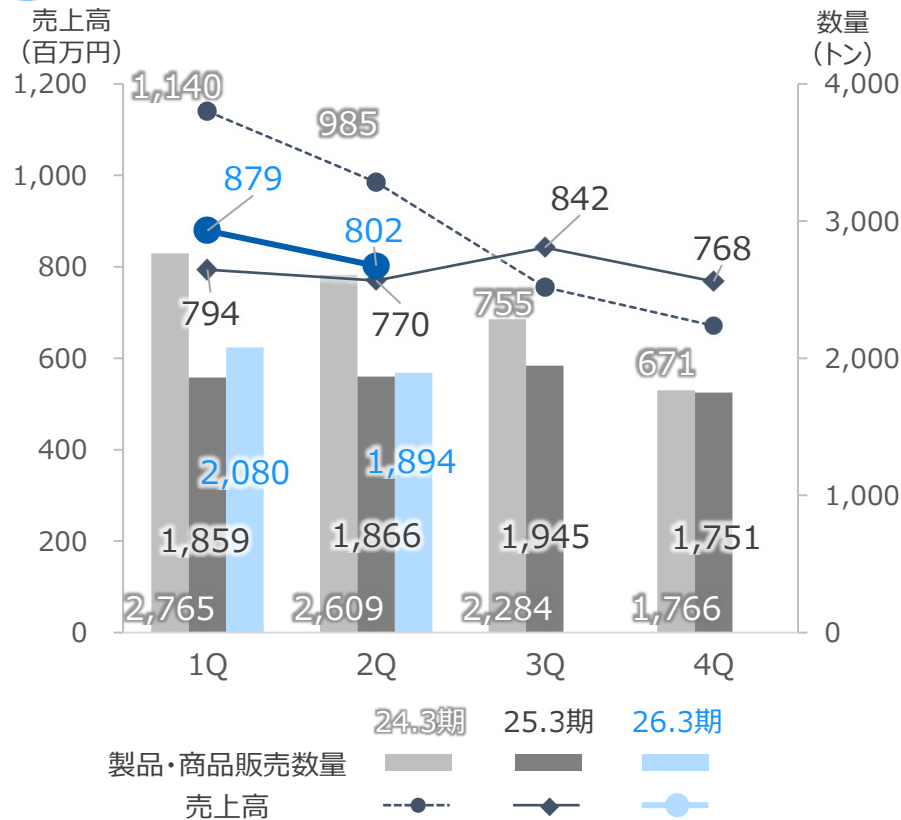
※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております



化学品、自動車事業（四半期ごとの推移）



化学品事業



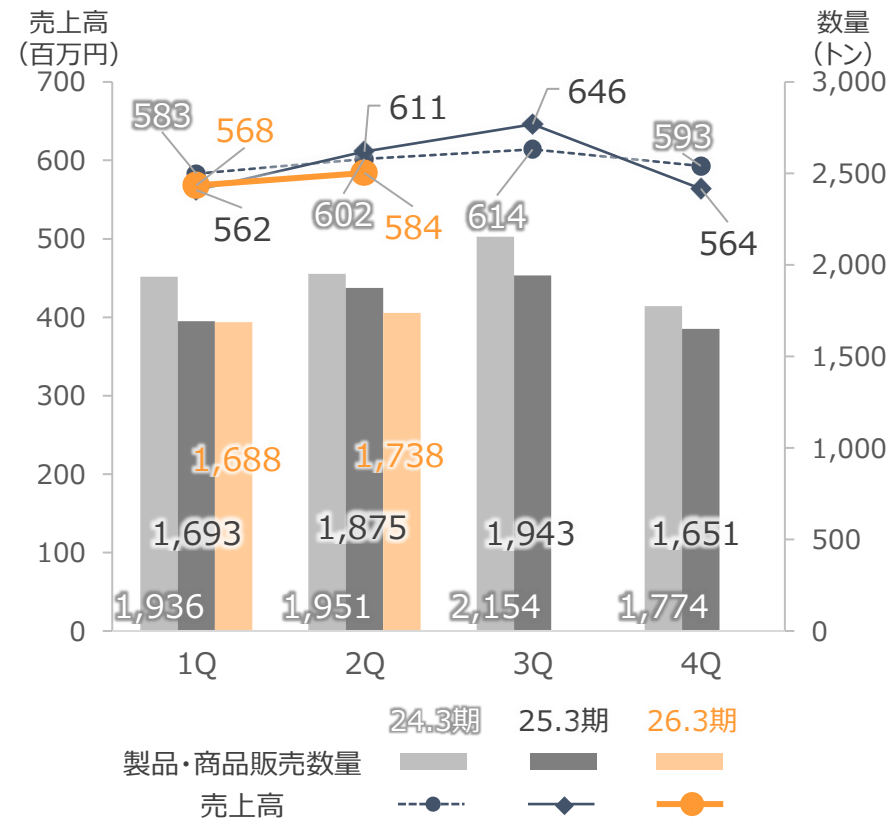
化学品事業売上と製品・商品販売数量

- 半導体業界の回復遅れにより**ファインケミカル製品は伸び悩み**
- 電池業界の成長鈍化により**主力製品の先行きは不透明**



自動車事業

※ 24.3期は分類変更後の区分に組み換えしております



自動車事業売上と製品・商品販売数量

- 原料価格の上昇により**販売単価は上昇**
- 機能材・汎用品どちらも前年と比較して**数量は減少**

※ グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

- 半導体業界の需要は鈍いものの、**電池業界向けバインダーや電子部品業界向け受託加工は好調**
- 解体・清掃作業等においては、**大型案件の着手が遅延したものの下期には獲得できる見込**

◆ 成長分野における売上見込（主要な取引先・製品の集計）

取引種別	当社事業分類	2026年3月期				
		計画		実績	計画比 (金額)	進捗率
		通期	2Q累計	2Q累計		
① 半導体	リユース・化学品	8.9億円	3.4億円	3.2億円	△0.2億円	36%
② 電池		9.9億円	5.0億円	6.1億円	+1.1億円	62%
③ 電子部品		6.7億円	3.4億円	3.9億円	+0.5億円	59%
①-③ 引取廃棄物の再資源化分	リユース・リサイクル	14.1億円	6.5億円	5.7億円	△0.7億円	41%
解体・清掃作業等	エンジニアリング	5.5億円	2.5億円	1.9億円	△0.5億円	36%
上記成長分野の合計		45.2億円	21.0億円	21.1億円	+0.1億円	47%

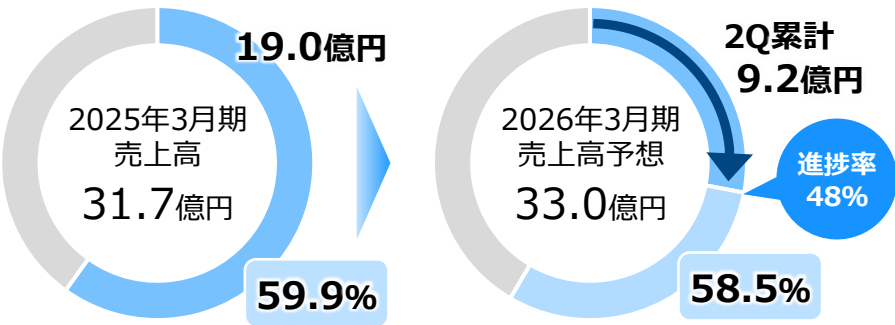
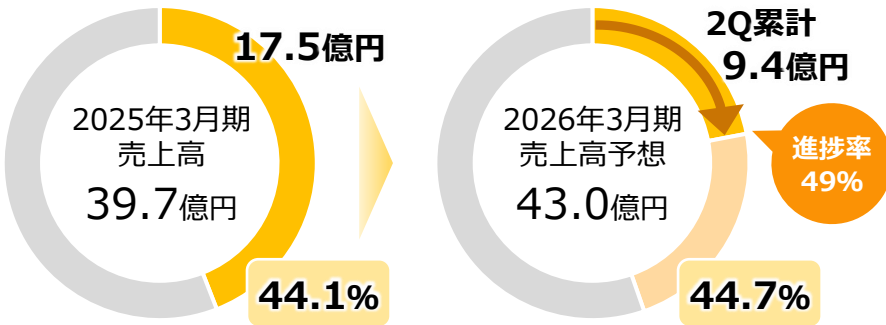
リユース・化学品事業におけるエレクトロニクス業界向け売上高



リユース事業 ■ 半導体・電池・電子部品業界向け
(主要な取引先・製品)



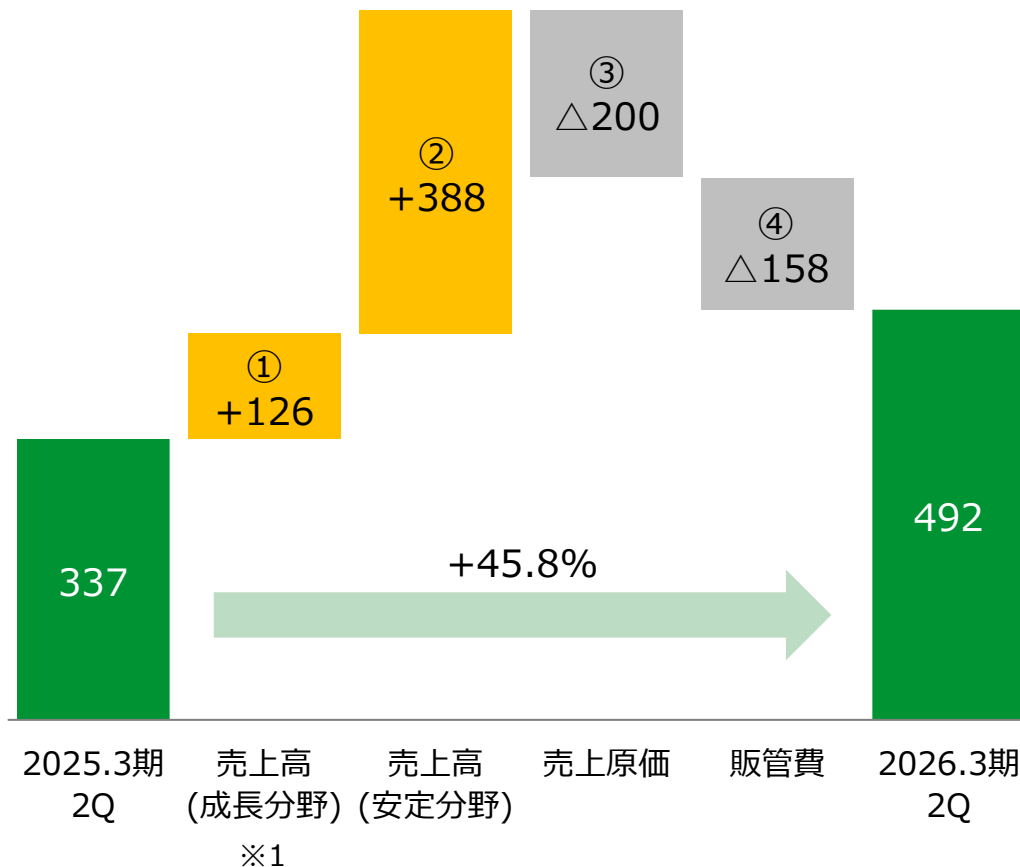
化学品事業 ■ 半導体・電池・電子部品業界向け
(主要な取引先・製品)



営業利益増減要因分析（前年同期比）

- 電池業界向けファインケミカル品の販売数量増や**PCB処理案件の需要取込により増収**
- 外注加工費や外注運賃の一部内製化により、**原価改善を行い粗利率は上昇**

（百万円）



① 売上高（成長分野）

- 〈+〉【化】電池業界向け**バインダー**の販売数量増加
- 〈-〉【化】半導体業界向け**高純度製品**の販売数量減少

② 売上高（安定分野）

- 〈+〉【RC】子会社向け**廃棄物引取**の数量が増加
- 〈+〉【I】PCB処理案件の需要取込

③ 売上原価

変動費

- 〈+〉外注加工費、外注運賃の一部**内製化**
- 〈-〉原材料、産廃処理費等の増加

固定費

- 〈-〉投資設備の稼働開始による**減価償却費増加**

④ 販管費

- 〈-〉人員増による**人件費増加**
- 〈-〉M&Aの**仲介、DD費用が発生**

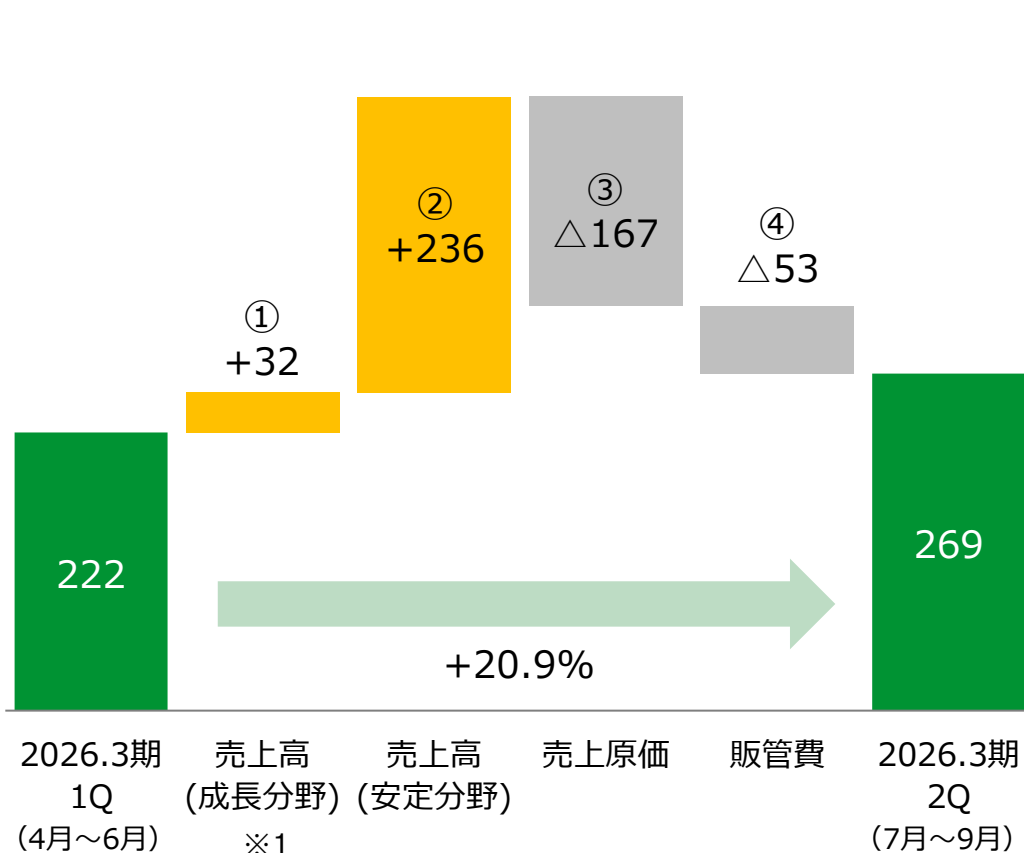
※1 当社が注力している、半導体・電池・電子部品業界向け製品および解体・清掃等の作業代の売上高

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因
【RC】リサイクル、【化】化学品、【I】エンジニアリング

営業利益増減要因分析（前四半期比）

- 半導体・電池業界向け高純度製品の需要が鈍化したものの、**PCB処理案件増加等により増収**
- 外注費用の一部内製化等によりコストを圧縮し、**利益率は改善傾向**

（百万円）



① 売上高（成長分野）

- 〈－〉【化】**ファインケミカル製品の需要鈍化**
- 〈＋〉【I】大型案件遅延により、**中小型案件を多数獲得**

② 売上高（安定分野）

- 〈＋〉【RC】子会社向け**廃棄物引取の数量が増加**
- 〈＋〉【I】PCB処理案件の増加

③ 売上原価 変動費

- 〈＋〉外注作業の一部内製化によりコストの圧縮
- 固定費
- 〈－〉車輛維持費の増加

④ 販管費

- 〈－〉M&Aの**仲介、DD費用が発生**

※1 当社が注力している、半導体・電池・電子部品業界向け製品
および解体・清掃等の作業代の売上高

〈＋〉利益へプラス要因、〈－〉利益へマイナス要因
【RC】リサイクル、【化】自動車、【I】エンジニアリング

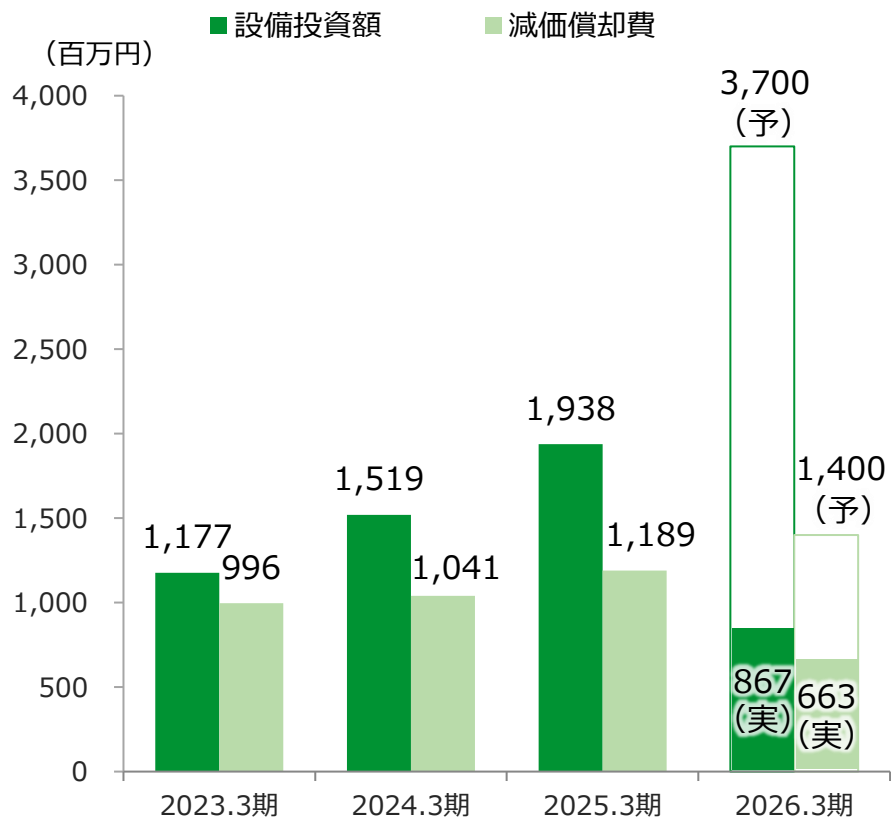
貸借対照表/キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2025年3月期	2026年3月期2Q末	前期比 増減額	コメント
流動資産	6,077	7,391	+1,314	工場建設代の調達等により現預金が増加
固定資産	14,559	14,816	+257	設備投資により有形固定資産が増加
資産合計	20,636	22,207	+1,571	
流動負債	4,174	4,432	+258	利益増加により未払法人税等が増加
固定負債	3,949	4,979	+1,029	長期借入金の増加
負債合計	8,123	9,411	+1,287	
純資産合計	12,513	12,796	+283	利益獲得により利益剰余金が増加
負債・純資産合計	20,636	22,207	+1,571	

(単位：百万円)	2025年3月期2Q	2026年3月期2Q	前期比 増減額	コメント
営業キャッシュ・フロー	871	1,450	+579	税金等調整前中間純利益の増加
投資キャッシュ・フロー	△1,820	△ 698	+1,121	有形固定資産取得額の減少
財務キャッシュ・フロー	△334	828	+1,163	長期借入れによる収入の増加
現金及び現金同等物の増減額	△1,283	1,581	+2,864	
現金及び現金同等物の期末残高	1,460	3,208	+1,747	

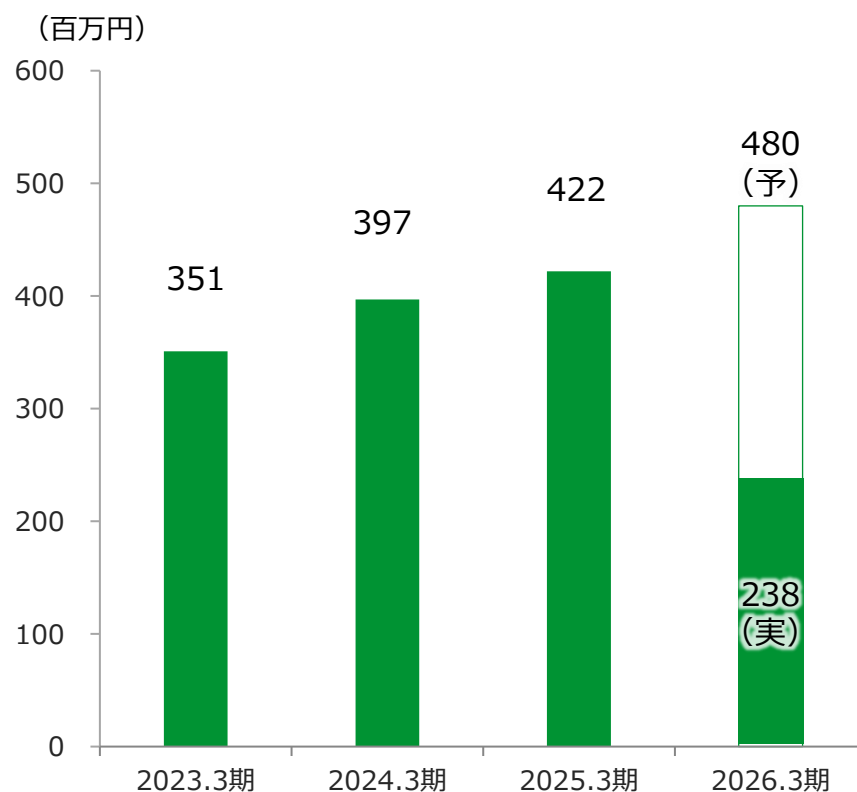
- 子会社サンワマテリアルソリューションズ株式会社の工場は建設を開始し進捗は順調
- 再資源化による付加価値拡大のための中量試験プラントを家下工場（愛知県）に設置

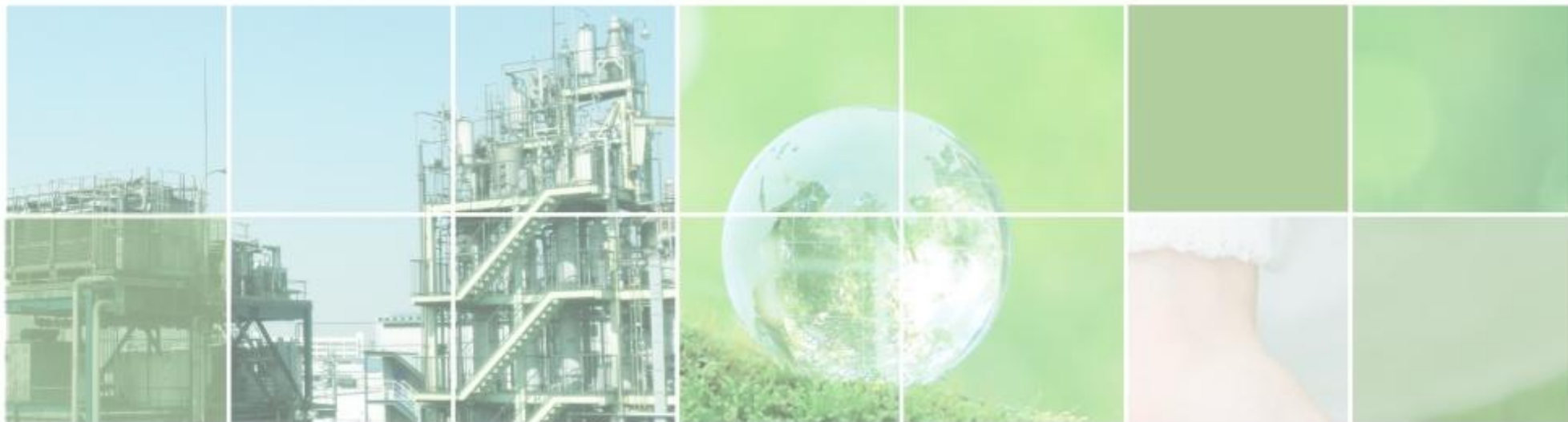
設備投資額・減価償却費



※減価償却費にはリース資産を含む

研究開発費





2026年3月期 業績予想



下期修正業績予想

- A&H Japan社の子会社による**リユース事業の増収および上期利益実績の上振により上方修正**
- のれん・無形資産の償却および**M&Aに要した費用（当期のみ）発生により利益は一部圧縮**

		上期			下期			通期		
		期初業績 予想	実績	達成率	期初業績 予想	修正後業 績予想	増減	期初業績 予想	修正後業 績予想	増減
(単位：百万円)										
売上高	リユース	2,100	1,979	94%	2,200	4,021	+1,821	4,300	6,000	1,700
	リサイクル	2,900	2,868	99%	2,900	2,882	△18	5,800	5,750	△50
	化学品	1,600	1,681	105%	1,700	1,669	△31	3,300	3,350	+50
	自動車	1,200	1,152	96%	1,200	1,198	△2	2,400	2,350	△50
	エンジニアリング	550	606	110%	650	644	△6	1,200	1,250	+50
売上高 計		8,350	8,287	99%	8,650	10,413	+1,763	17,000	18,700	+1,700
営業利益		350	492	141%	650	608	△42	1,000	1,100	+100
経常利益		380	586	154%	680	614	△66	1,060	1,200	+140
親会社株主に帰属する 当期純利益		250	376	151%	490	454	△36	740	830	+90

- 子会社化したA&H Japan社と**新しい金属マテリアルリサイクル案件の開拓**
- 設備投資・研究開発・増員等は計画通り実施し、**収益・利益拡大にむけた活動方針に変更はなし**

(単位：百万円)		修正後 通期業績予想	2026年3月期 上期実績	進捗率
売上高	リユース	6,000	1,979	33.0%
	リサイクル	5,750	2,868	49.9%
	化学品	3,350	1,681	50.2%
	自動車	2,350	1,152	49.0%
	エンジニアリング	1,250	606	48.5%
売上高 計		18,700	8,287	44.3%
営業利益		1,100	492	44.7%
経常利益		1,200	586	48.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益		830	376	45.3%

事業種類別概況



リユース事業

- ・ A&H Japan社の子会社化により金属マテリアルリサイクルを拡大
- ・ 再生溶剤・リン酸の原料収集に注力し、取扱数量を拡大



リサイクル事業

- ・ 化石燃料の代替として廃棄物由来エネルギーを供給し、脱炭素貢献
- ・ 営業強化し幅広い業界から産業廃棄物収集量を増加



化学品事業

- ・ 車載向け電池バインダーの製造・販売を拡大
- ・ 半導体業界の回復、電池業界の成長速度等の外部環境の影響大



自動車事業

- ・ 新しい機能材開発、顧客との関係性強化による他事業とのシナジー
- ・ 米国の通商政策の影響がどの程度か不透明

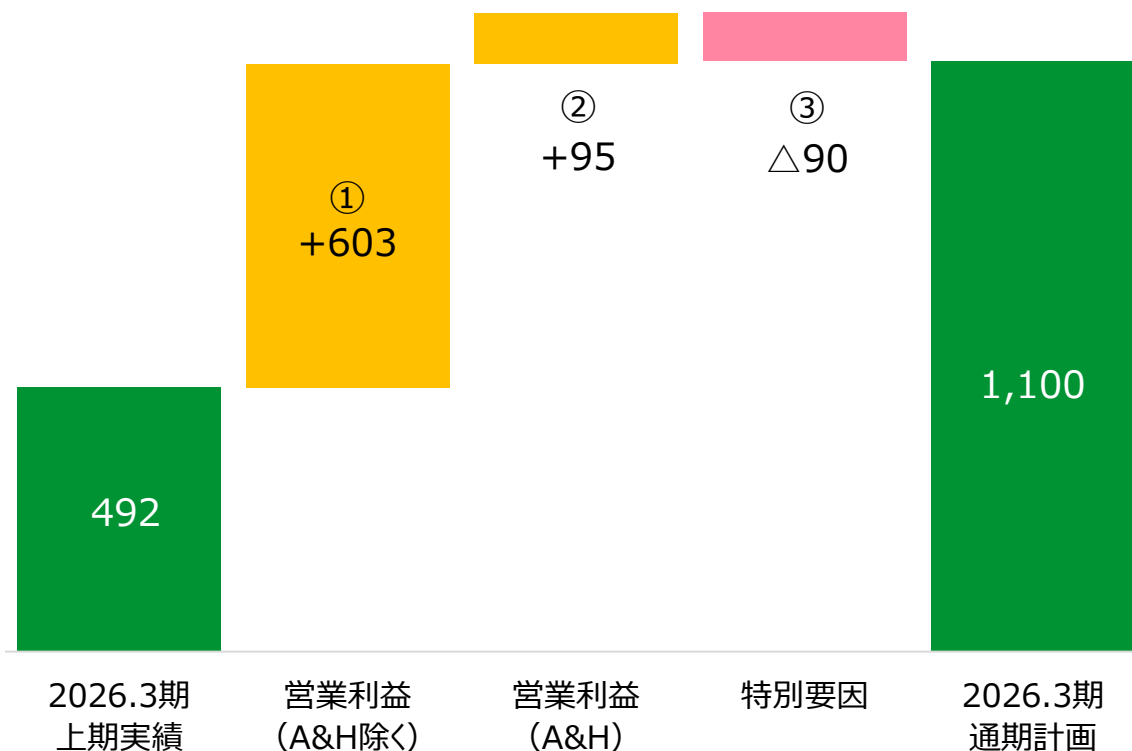


エンジニアリング事業

- ・ 着手時期がずれ込んでいるものの、大型解体案件の受注見込あり
- ・ 2027年のPCB処理期限により、特殊案件の駆込み需要を期待

- 外部環境を見据えた営業活動強化により、**化学品事業およびエンジニアリング事業の拡大を推進**
- A&H Japan社の子会社化により、**リユース事業が収益を牽引するも原価改善の余地あり**

(百万円)



① 営業利益 (A&H除く)

- 〈+〉【RU】【RC】 幅広く廃棄物原料を収集
- 〈+〉【I】 大型解体案件に着手
- 〈+〉【全】 工程改善による原価低減
- 〈-〉【全】 従業員数増加等の人件費上昇

② 営業利益 (A&H)

- 〈+〉【RU】 アイテム充実による商事取引の強化
- 〈+〉【RU】 営業的シナジーによる商圈拡大
- 〈-〉【RU】 金属相場高騰による原価率アップ

③ 特別要因

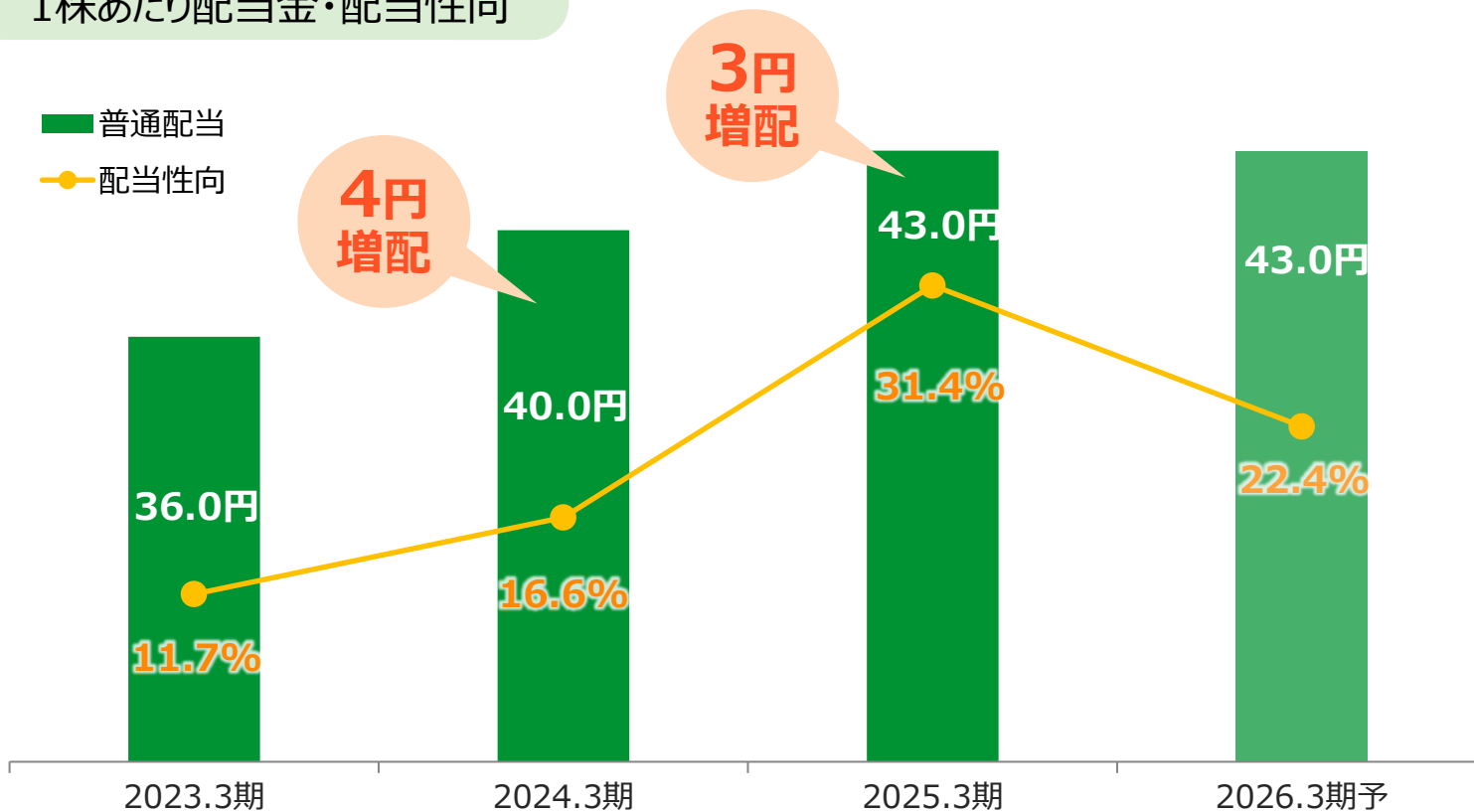
- 〈-〉M&A仲介、DD等の費用 (当期のみ発生)
- 〈-〉のれん・無形資産償却
- ※販管費 ①②の営業利益には含めておりません

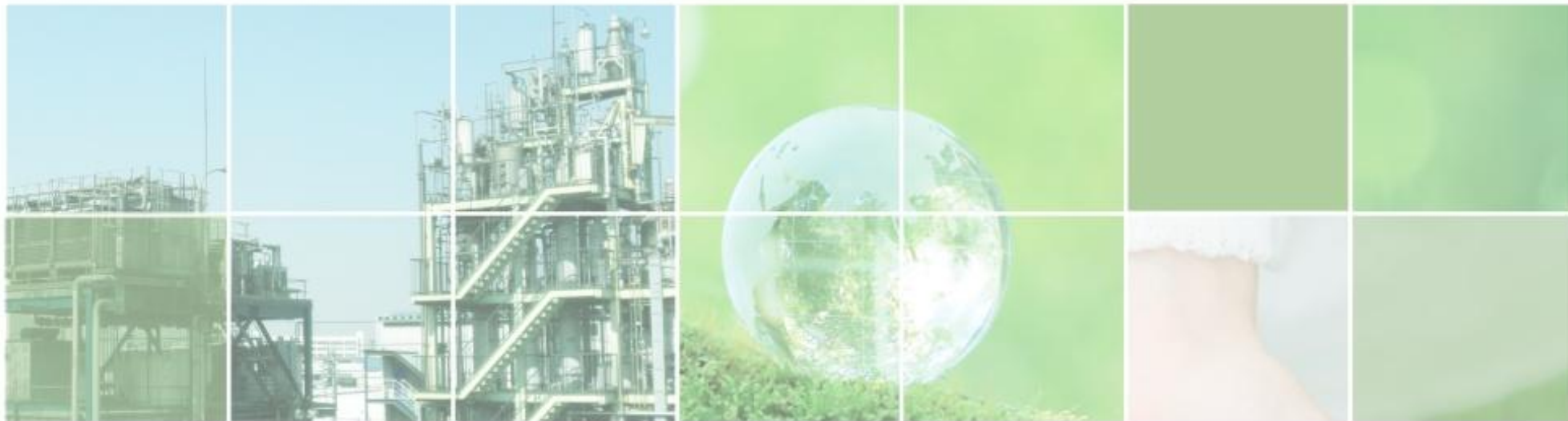
〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因
 【RU】リユース、【RC】リサイクル、【I】エンジニアリング

配当方針

今後の事業展開及び財務体質の充実等を勘案のうえ、
非減配を基本方針とし、安定的な配当を継続して実施していきます

1株あたり配当金・配当性向





中期経営計画



- 事業環境と当社グループの強みを踏まえて、経済的価値と社会的価値の向上を図る

事業環境

大企業を中心としたサステナブルニーズの拡大

- 国内での資源循環、サーキュラーエコノミー
- 化石エネルギーからの転換、脱炭素
- 資源調達リスク等の課題解決

半導体・電池・電子部品のマーケット拡大

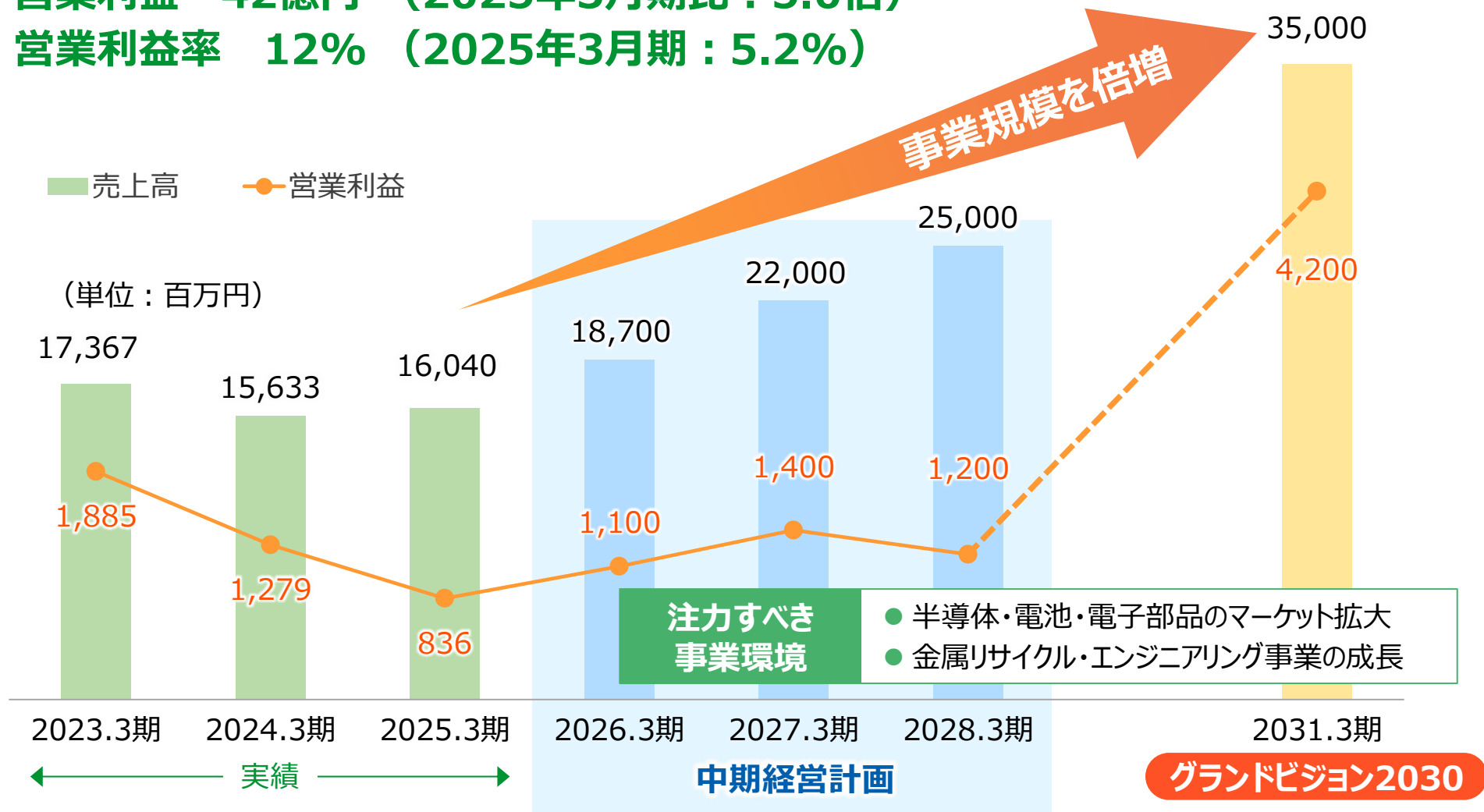
- 新たな工場建設への投資が加速
- 次世代自動車シフトによるサプライチェーン変化
- 微細化に伴う品質要求厳格化と再生材ニーズ

自社グループの強み

- | | |
|---|-----------------------------------|
| ① | 全国から様々な廃棄物を集める仕組みと特徴ある産廃許可を保有 |
| ② | 輸入依存資源をマテリアルリサイクルできる高度な分離・精製技術を保有 |
| ③ | リサイクル企業であり、メーカーである |
| ④ | 廃棄物から電子材料まで幅広い事業領域 |
| ⑤ | 全国の優良企業との直需取引 |

⇒ 拡大するニーズ・マーケットに対し、世の中の役に立つ仕事を通じ
「社会から必要とされる環境リーディングカンパニー」を目指す

- 売上高 350億円 (2025年3月期比 : 2.2倍)
- 営業利益 42億円 (2025年3月期比 : 5.0倍)
- 営業利益率 12% (2025年3月期 : 5.2%)



業績目標

2028年3月期

売上高

25,000百万円

営業利益

1,200百万円

営業利益率

4.8%以上

EBITDA

3,200百万円

EBITDA：営業利益＋減価償却費

グランドビジョン2030に向けた 中期経営計画の位置づけ

確実性の高い安定的な 事業成長・業績拡大

- 半導体・電池関連及び再資源化設備の稼働率向上
- 東西拠点を中心とした新規顧客開拓
- 金属リサイクル・エンジニアリング事業の拡大推進

グランドビジョン2030に向けた 大型投資の実施

- 約80億円を投資し北九州市に新工場建設
（資源循環投資促進補助金として最大18億円）
- 金属リサイクル、廃棄物の燃料化設備等の増強

サンワマテリアルソリューションズ株式会社

成長が見込まれる半導体関連企業等の**産業廃棄物を
マテリアルリサイクルする工場**を北九州市に建設

投資額 約80億円（うち最大18億円の補助金）

稼働予定 2027年度

売上計画 2027年度：約12億円

A&H Japan株式会社の完全子会社化

為替・地政学等の要因により、調達リスクが懸念される**希少金属マテリアルリサイクルについて、取扱数量増加を目的とし、大阪市のA&H JAPAN株式会社を全株式取得により完全子会社化**

投資額 7億円（株式譲渡金額のみ）

売上計画 2025年度下半期：約19億円

※別途、シナジーを活かした生産設備増設を計画中

再資源化による付加価値を拡大するための研究開発

新しい分離・精製技術により、焼却処理されている**廃棄物等を再生品原料として有効利用し、付加価値を拡大するための試験装置を家下工場（愛知県）に設置**

投資額 約3億円（4設備）

稼働予定 2025年度

その他

■ 混合エマルジョン化設備増設（愛知県）

投資額 約11億円

稼働予定 2027年度下期

※フル稼働時には、約5億円の増収を計画

■ 資本効率の改善投資

収益性・採算性の低い設備をスクラップ&ビルド

- グランドビジョン2030の実現に向け、約80億円を投資し**九州地区に新工場建設**
- 第1期工事においては成長性の高い**半導体業界をターゲットに再資源化ニーズを取込む**

成長エリアにおけるリユース・リサイクル

- 九州地区は半導体関連の工場建設・投資が活況
- 有機/無機化学品の需要が増えていく見通し
- 半導体を中心とした動脈産業の大きな成長見通しに対し、廃棄物の再資源化を行う静脈産業※の体制は不十分

当社の役割

地産地消の再資源化により、サーキュラーエコノミーを実現

- 成長が期待できる地域での新工場建設
- 資源調達リスクに対する**BCP対応**、製造業顧客の**コスト低減**、バリューチェーンにおける**CO₂排出量の低減**等に貢献

サンワマテリアルソリューションズ株式会社

九州地区に集積している半導体メーカーより排出される使用済化学品の再生を主軸にマテリアルリサイクル・サーマルリサイクルによる再資源化ニーズに対応

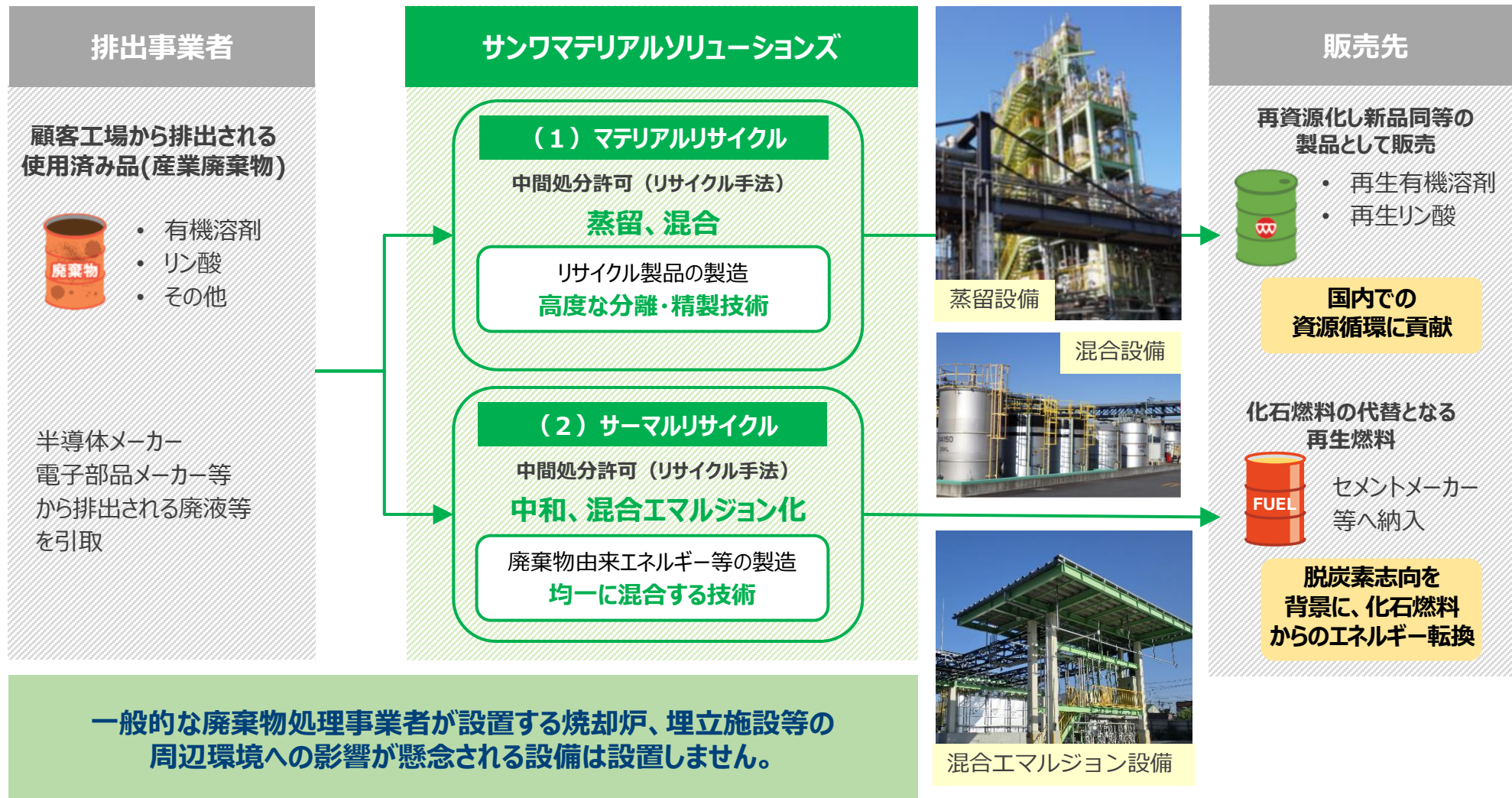
所在地	北九州市戸畑区牧山5丁目（AGC株式会社 北九州事業所内）
稼働開始	2027年4月（予定）
建設費用	第1期工事として約80億円の設備投資 （先進的な資源循環投資促進事業補助金の給付が最大約18億円）
売上計画	2028年3月期 約12億円

工場外観(予想図)



※静脈産業：資源を加工して有用な財を生産する諸産業を動脈産業ということに対して、それらの産業が排出した不要物等を社会や資源循環過程に再投入するための事業を行っている産業

- 九州エリアを中心に成長が見込まれる**半導体関連企業等の産業廃棄物をマテリアルリサイクル**
- マテリアルリサイクルとサーマルリサイクルの2段階構えで、**サステナブル社会の実現に貢献**



A&H Japan

■ 会社概要

会 社 名	エー・アンド・エイチ・ジャパン株式会社
住 所	大阪市西淀川区西島1-2-152
代 表 者	武田 正治
資 本 金	4,900万円
業 績	2024年9月期（税込） 売上高：3,970百万円 営業利益：199百万円 当期純利益：101百万円

■ 事業紹介

貴金属事業

売上構成比 約**70%**

- ・ 酸処理や剥離により、金・銀・パラジウム等を回収し販売。
- ・ 相場上昇が追い風となる。



▲ 貴金属回収装置

インジウム事業

売上構成比 **5-10%**

- ・ インジウム含有液を引取り回収販売。
- ・ 回収事業者は国内に3社のみで残存者利益を狙う。



▲ インジウムインゴット

電極剥離事業

売上構成比 **5-10%**

- ・ 使用済電極を引取りレーザー剥離により再生。
- ・ レーザー剥離技術について特許保有。



▲ レーザー剥離装置

商事部門

売上構成比 **15-20%**

- ・ 仕入を行い転売する金属商社としての事業。
- ・ 在庫リスクを負う場合、直送する場合両方あり。
- ・ 輸出向けの商品の取り扱いもあり。

企業結合前の状況

- 三和油化グループでは、有機溶剤等のマテリアルリサイクルには優位性があるものの、金属リサイクルの実績は低水準
- A&H社では、技術力を活かして事業拡大を目論むも、リソース不足により課題感あり



三和油化工業株式会社

- 半導体・電池・電子部品業界への豊富なマテリアルリサイクル実績
- サステナブル意識の高い大手メーカーと直需取引が多い



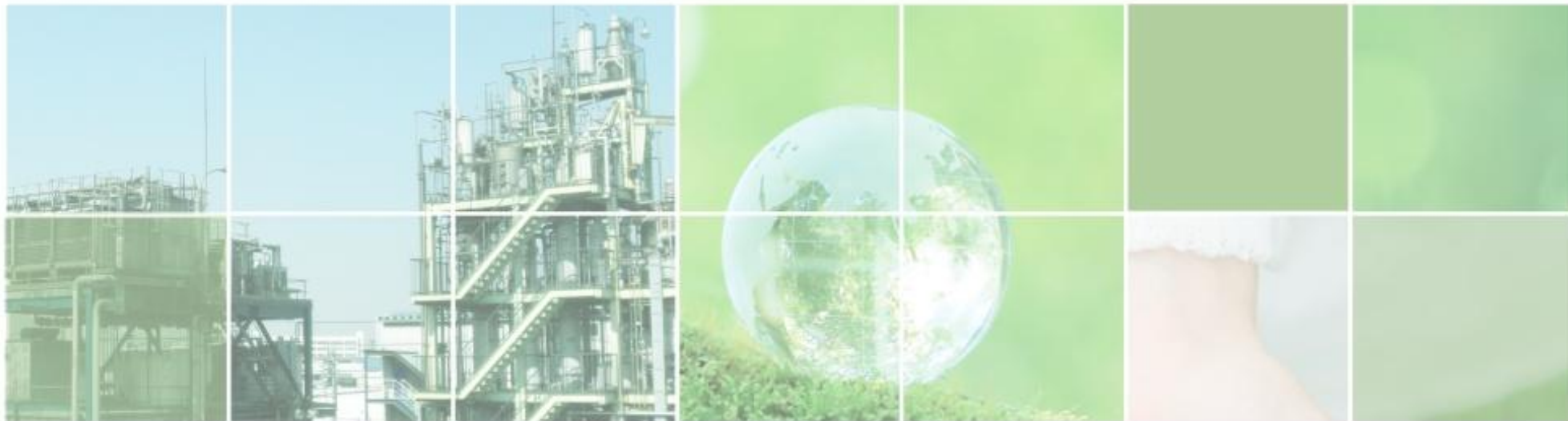
A&H Japan

- 研究開発力に優れ、貴金属・レアメタルのリサイクル実績が豊富
- GHG排出量の少ない湿式回収がメイン

事業機会

- 半導体・電池・電子部品業界では、成長に伴い希少金属の利用量増加が見込まれる
- 為替や地政学等の要因により安定的に希少金属を調達できないリスクが顕在化

大手メーカーのニーズに応え、輸入依存度の高い希少金属を国内で資源循環



Appendix



① 半導体業界における当社の戦略

- 中長期的な成長が見込まれる半導体関連メーカーに対して、**ファインケミカル品の製造販売から使用済化学品の再資源化まで提案**しサステナブルな事業成長を実現

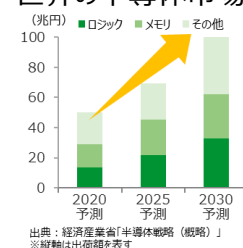
当社グループの強み (Strength)

- 国内唯一の**化学品リサイクルメーカー**
- 廃棄物の**最適な再生(処分)方法を提案**
- **厳格な品質管理体制**



事業機会 (Opportunity)

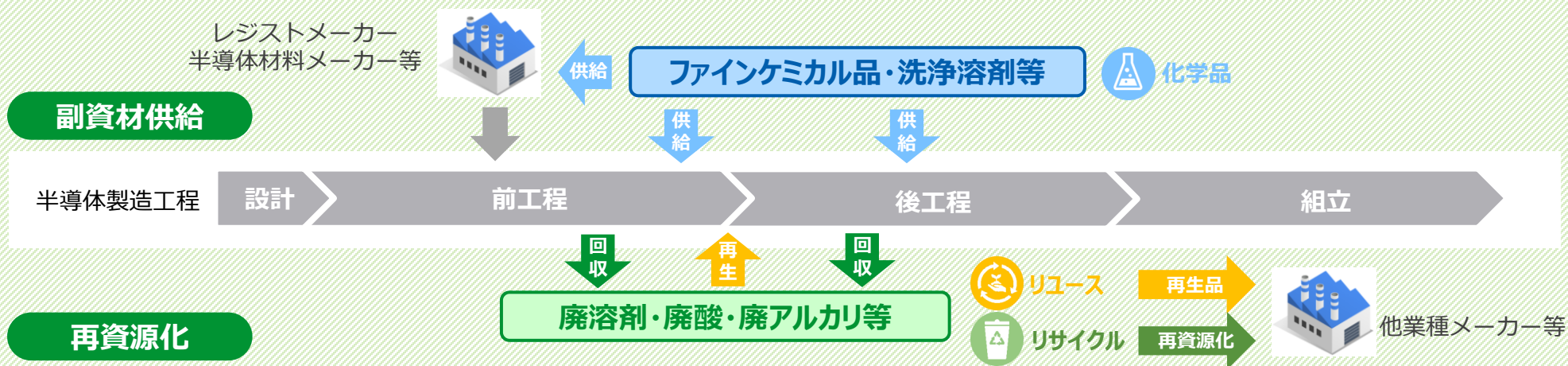
世界の半導体市場



- 市場規模は**今後も拡大傾向**
- 国内メーカーも**主要プレイヤー**

強みを機会に対して活かす戦略 (リユース・リサイクル・化学品)

- 前・後工程で使用される**薬液の供給と使用済化学品の再資源化**



② 電池業界における当社の戦略

- 市場規模の拡大が見込まれるリチウムイオン二次電池関連メーカーに対して、幅広いモノの取扱いと製造販売から再資源化まで提案することによりサステナブルなサービスを提供

当社グループの強み (Strength)

- 高レベルで分離・精製する技術
- 低水分下で均一に混合する技術
- 国内外の安定的な調達ルート
- 自動車メーカーとの強固な関係性



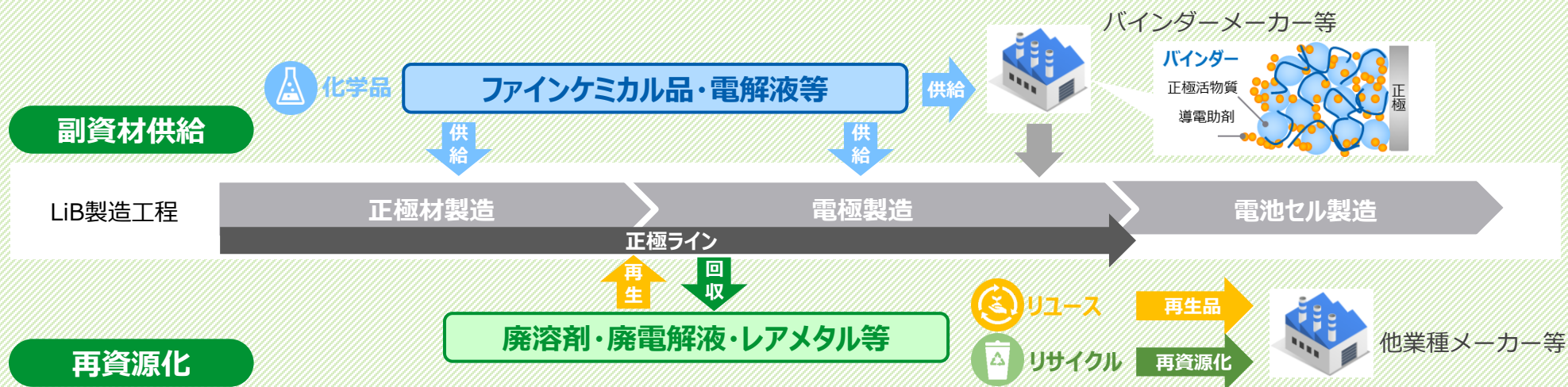
事業機会 (Opportunity)



- 中長期的には大きな成長が見込める市場
- 蓄電池等は特定重要物資に国が認定

強みを機会に対して活かす戦略 (リユース・リサイクル・化学品)

- ファインケミカル品や機能性材料の供給と使用済化学品の再資源化



③ 電子部品業界における当社の戦略

- 成長が見込まれる電子部品メーカーに対して、ファインケミカル品・再生品の製造販売やアライアンス先との協業等による受託再生により**資源循環ニーズ**に応える

当社グループの強み (Strength)

- 高い**品質管理体制**
- 多様なメーカーとの**直需取引**
- **地産地消**を推進するアライアンス体制



事業機会 (Opportunity)

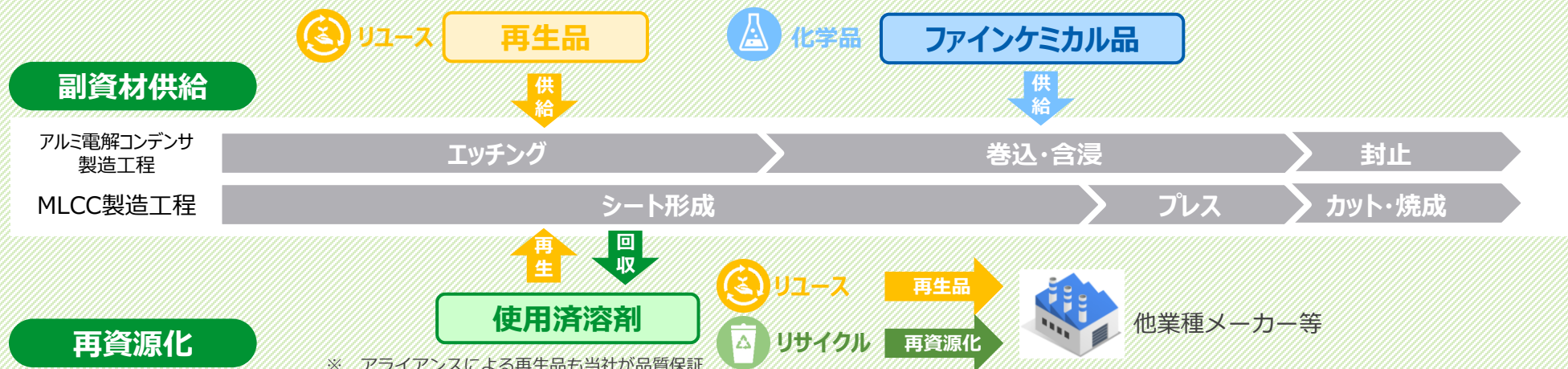
- DX化等により**MLCC、アルミ電解コンデンサ**は需要増加予想
- 日本の**MLCCメーカー**は競争力あり

※ MLCC : 積層セラミックコンデンサ



強みを機会に対して活かす戦略 (リユース・リサイクル・化学品)

- **ファインケミカル品・再生品の供給と使用済化学品の再資源化**



④ ファインケミカル品の調達及び供給における当社の戦略

- エチレンプラントの統廃合により生產品種が絞られ、一部のファインケミカル品が希少化することに対し、**調達・供給能力の強化及び使用済化学品の再生を提案**

当社グループの強み (Strength)

- 海外からのファインケミカル品の調達ルート
- 使用済化学品の再生
- 湾岸地域の大型タンク



▲ 危険物タンク

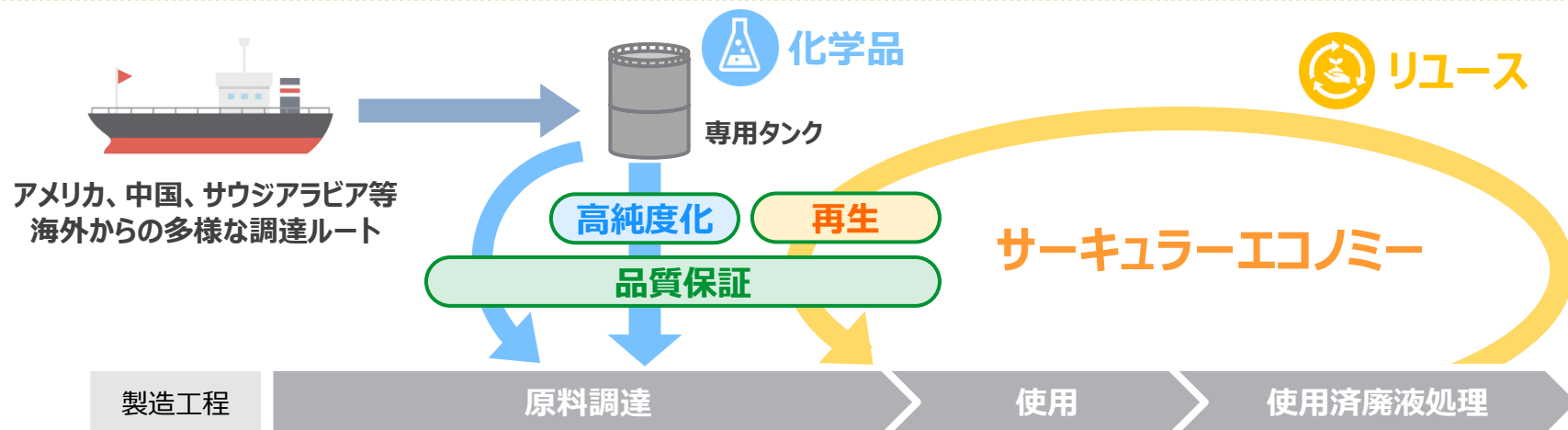


事業機会 (Opportunity)

- エチレンプラントの統廃合により、消費量の少ないファインケミカル品が希少化
- 主要ユーザーと保管場所の立地環境

強みを機会に対して活かす戦略 (リユース・化学品)

- 国内で希少化したファインケミカル品の供給及び廃液の再生による資源調達リスクの低減



⑤ エンジニアリング事業における当社の戦略

- PCB事業で培った作業・解体ノウハウを活かし、工場改廃ニーズを取込みエンジニアリング事業を拡大
- 解体工事により発生する残液や金属を回収し、リユース・リサイクル事業により再資源化

当社グループの強み（Strength）

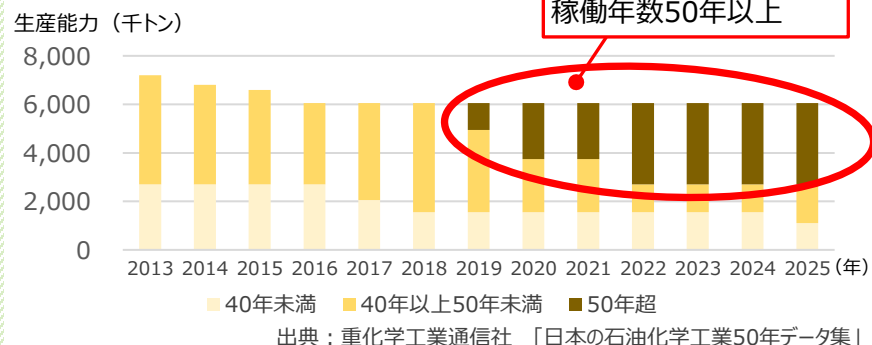
- 産廃処理・収運、特定建設業の許可保有
- 石油・化学関連企業との強固な関係性
- 多数の資格保有者が在職

資格名	保持者数 (人)	資格名	保持者数 (人)
一級施工管理技士	1	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	12
石綿作業主任者	4	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	24
職長教育（オールトヨタ）	23	PCB廃棄物収集運搬作業従事者	21



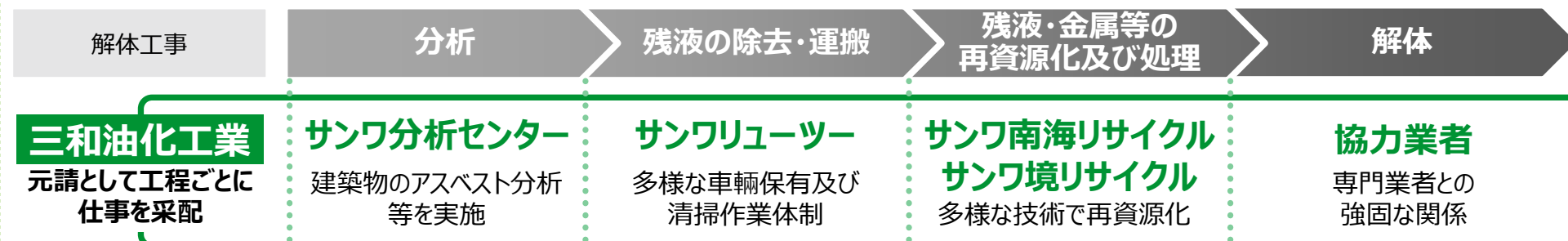
事業機会（Opportunity）

- 業界再編によりエチレンプラントが統廃合
エチレンプラント設備の稼働年数



強みを機会に対して活かす戦略（リユース・リサイクル・エンジニアリング）

- 分析・残液採取・処理から設備撤去まで、グループ企業でワンストップサービスを提供



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

三和油化工業株式会社

TEL 0566-35-3021（経営管理部）

URL <https://www.sanwayuka.co.jp/>

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。